

NF 通信

ice arther



Vol.23

column

01

専門家コラム

西村医院 小児科医師 澁上 佐智子さん



今気になる感染症

『百日咳』

コンコンと咳き込んだあとヒューっと笛を吹くような音を立てて息を吸う特有な咳が特徴です。

1日中連続的に咳き込んだり、発作的に咳き込んで止まらなかったりします。このような咳が長期にわたって続きます。特に生後3ヶ月未満の乳児では、呼吸ができなくなる発作(無呼吸発作)、肺炎、中耳炎、脳症などの合併症もあり命に関わる事もあります。

百日咳菌による感染症で潜伏期間は7~10日。とにかく咳がしつこいのが特徴で発熱はあまりありません。年齢が低いほど重症で、小学生になると咳の続くかぜに思われる事もあります。診断は症状だけでなく鼻腔ぬぐい液から百日咳菌のDNAを検出する検査や迅速検査、また採血による抗体検査があります。治療は抗生物質を内服します。

百日咳予防には予防接種があります。乳児の感染を防ぐために生後2ヶ月から5種混合ワクチン(沈降精製百日咳、ジフテリア、破傷風、不活化ポリオ、インフルエンザ菌b型ワクチン)を4回接種します。ただ調査で①就学前児の百日咳抗体価が低い事②百日咳患者は5~10才代後半に多いことがわかってきました。これを受けて日本小児科学会では、任意接種として①就学前の3種混合ワクチン接種②11才~13才未満で2種混合のワクチン(DT)の代わりに3種混合ワクチンの接種を推奨しています。1日も早く公費助成がつくように医師会としても行政に公費助成を要望しています。

column

02

NFリレーコラム

鈴木 大樹さん

4月から育児休業を取得したことで、子育てに専念できる環境になりました。その日々に感謝するとともに、息子の成長に感動する毎日を送っています。大変なことも多々ありますが、満面の笑顔や安心した寝顔、元気な姿を見たら「子育ては素晴らしいな」と感じることができています。

妻と二人三脚での子育ては、自分自身のライフワークバランスを見直すきっかけにもなりました。また仕事復帰をした際に育児休業中の経験が活かせることにも期待しています。今家族が幸せに過ごせているのは、生まれてきてくれた息子と産んでくれた妻のおかげです。これからも楽しく頑張ります。



あなたも投稿してみませんか

採用者には、こども商品券贈呈!

